

実践団体情報

記入日	西暦 2023 年 1 月 19 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	文京 de BOSAI
代表者名	石瀬 素子
プラン全体のタイトル	文京★こども「ぼうさい」スタンダード ～こどもを通じて地域の大人に「ぼうさい」の大切さを伝える～
電話番号	03-5841-5662
メールアドレス	bunkyo.de.bosai@gmail.com
実践団体の説明	「こども」×「防災」の活動を通して、自助力（生き延びるための知恵）、防災リテラシー、地域力、防災力の向上を目的とする文京区にかかわる面々が徐々に集まって成長しつつある団体である。団体メンバーのバックグラウンドが多彩。
所属メンバー	【代表・事務局】石瀬素子（東京大学地震研究所・湯島青少年健全育成会），【事務局】 冨部哲也（文京区アマチュア無線連絡会会長），【メンバー】伊東静香，岡庭譲治，小田巻善雄，北尾昭子，酒井美津子，鈴木大助，松田充弘，【相談役】 廣井悠（東京大学大学院），平田京子（日本女子大学）
活動地域	東京都文京区（特に本郷・湯島地区と大原地区）
活動開始時期・結成時期	2021 年 11 月
過去の活動履歴・受賞歴	団体としての活動は結成時からである。受賞歴等もない。しかし、各メンバーの防災に関する活動内容は多岐にわたりその期間も長い：（冨部）20 年近くにわたり文京区との協定の下で災害に備えた無線訓練と地域への無線指導を行い、2017 年に連絡会として総務省から表彰を受けている。個人としては、AED を使った人命救助で表彰された。（岡庭）文京区湯島地区の地区防災計画（平成 27 年度モデル地区）作成の中心的存在である。（小田巻，松田，酒井）町会長や町会役員，地域の避難所運営協議会のメンバーとして地域の防災に長年関わってきている。（伊東）親子が地域とつながるための支援のための活動を定期的に行っている。（松田・石瀬）文京区青少年健全育成会の活動を行ってきてい

る。(富部・石瀬) 2022 年度に文京区防災士連絡会の立ち上げに尽力した。

<p>プラン全体の概要</p>	<p>本プランでは、地域の子どもたちを通じて、その保護者および地域住民に「防災の大切さを伝える」とともに、「防災について考えるきっかけ」を提供することを目的としている。文京区の特徴である「アカデミックな人材を含む多彩なリソース」を活用し、都市部にありがちなデメリットである「希薄な地域力」の強化に取り組む。また、地域力向上のための取り組みを通して、「都市型の防災」についても地域の皆で考えていく。</p> <p>この達成に向け、「親目線」で、子どもたちに身につけてほしい能力として4つの力にターゲットを絞り、これらを獲得するためのコンテンツの提案と作成を進めている。このうちのいくつかのコンテンツについては、地域で開催されるイベントを活用して実践した。</p> <p>また、イベント以外でのコンテンツの実践方法として、複数のコンテンツを必要に応じて組み合わせることで地震災害に関する様々な状況や局面で活用できる対応力を獲得できるようなフレームワークを考案した(年齢層・場所・時間軸で整理)。来年度に向け、現在は、コンテンツの充実化と提案・作成したコンテンツの位置づけ作業を進めている。</p> <p><地域の子どもたちに身につけてもらいたい4つの力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個々の良いところを見つける力 2. 災害時にも頼れる仲間づくりをする力 3. 身の回りの街や道を把握する力 4. 被害状況を想像することから災害対策を行う力
-----------------	--

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	【実践①】の打合せ/湯島		
5月	青少年健全育成会	【実践①】のための備蓄食とクイズコンテンツの作成。	【実践①】 『備蓄食を美味しく食べよう』と『防災クイズ』の実践
6月	【実践①】のアンケート集計		
7月	コンテンツの実践で達成したい目標について検討		
8月	し、4つの目標を決定。	コンテンツの提案（17案）・各コンテンツの具現化	
9月	【実践②・③】の決定		
10月			
11月	【実践②】打合せ/ボーイスカウト等	【実践②】内容の検討	
12月	【実践③】打合せ/消防署 【実践④】打合せ/たいさんぼくの会（小学校PTAのOB会）：来年度の活動について	【実践③】のMyお守り作りの準備 【実践③④】のお土産の缶バッジ作成	【実践②】 『ひとりでお家にいるとき地震が起こったら』の配布 【実践③④】 「やればできる！」イベント
1月	打合せ/たいさんぼく会		
2月			
3月			防災かるた（ver.BKS）完成




プラン全体の反省点・課題・感想	感染症拡大対策のため、当初参加予定していたイベントの中止が相次いだ。しかし、周囲の協力により、対面での実践機会が3度も得られ、今後につながる経験ができた。今後の課題は、検討中のコンテンツの実践効果の評価方法である。
今後の活動予定	我々のコンテンツは、学校教育と親和性が高いものが多いので、小学校関係組織や教育委員会と新たに連携して教育現場にコミットし、コンテンツの提供・実践予定である。また、児童が自宅でも自修できるようなコンテンツ集を作成する。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 12 月 30 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	文京 de BOSAI
実践番号	①
タイトル	親子で考えよう「備蓄食について」
実践担当者のお名前	石瀬素子・冨部哲也・本郷小学校 PTA 本部役員 3 名

実践にかかった金額	3000 円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 6 月 26 日 10 時 00 分～西暦 2022 年 6 月 26 日 12 時 00 分
実践の所要時間	1 グループあたり 30 分×3 グループ
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・保護者/PTA
防災教育の対象者の人数	15 家族 約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都文京区
実践を行った具体的な場所	本郷小学校体育館前通路
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	備蓄食・備蓄食以外の食材・調味料・食器・栄養教諭のアドバイス・文京区防災課の協力（避難所に置かれている備蓄食の種類と数量）・レシピ集の編集技能

達成目標	<p>「もしもの時のための備蓄」は「やらねばならない事」だから実施している場合が多いと考えられ、その場合の備蓄は、非常時に役立つ内容になっていないことが推測される。そこで、本コンテンツでは、なぜ備蓄するのか？何が必要か？について各々が考え、その結果、備蓄（食・品）を準備することは当然のこととして思えるようになってもらうことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難に備蓄されている食料の種類と数量を知る。 ・どのようなものが備蓄食になるのかを知る。 ・備蓄食でも楽しめる方法があることを知る。 ・親子で備蓄食のアレンジレシピを考える（コロナ禍のため中止）。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ならどのようなものを備蓄食にするかを考える。 ・食べる⇒排泄 を意識できるようにする。 	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>実践内容・方法</p>	<p>【内容1】地域の避難所に準備されている備蓄食に関する情報の展示。</p> <p>(目的)</p> <p>避難所に準備されている非常食は決して美味しいものではないし、数も十分ではないことを知る。この現実を知ること、在宅避難を前提とした備えの必要性を実感してもらう。</p> <p>(方法)</p> <p>①文京区防災課に問い合わせ、本郷小学校に準備されている備蓄食の種類とそれぞれの原材料および数量の確認。</p> <p>②①の情報を備蓄食の写真とともに掲載したパネルを作成(次頁写真)。</p> <p>③文京区から提供してもらった備蓄食を、自宅で試食してもらう(当初は、会場にてアルファ化米を水で調理し、これを試食することを計画していた。しかし、感染症拡大対策のため計画を変更した)。配布される備蓄食が好みの味かどうかなどを平時に確認しておくことを推奨した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>わかめごはん</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>災害救助用クラッカー</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>ホワイトシチュー NEW</p>  </div> </div> <p>【内容2】文京区から配布される備蓄食を使ったアレンジ食を展示。あわせてそのレシピ集を展示した。</p> <p>(目的)</p> <p>備蓄食は、それ用の特別なものを準備しなければならないという固定観念を取り払う。「備蓄食のアレンジ食」が普通の少しお洒落な食事と変わらないことを見てもらい、普段使いできるものを備蓄食にするこ</p>	

とで備蓄食材の幅を増やすとともに、ローリングストックを習慣とするきっかけとする。さらに、食すことと排泄することはセットであることを伝える場として活用する。

(方法)

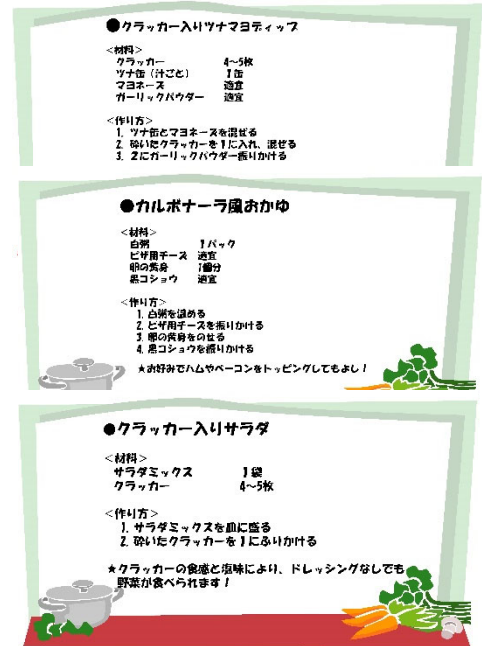
①文京区から備蓄食を提供してもらい、元本郷小学校栄養教諭のアドバイスの下、区から配布される備蓄食を使ったお手軽アレンジ食を準備。

②①のレシピの作成。

③アレンジ食とレシピ集の展示。

器への盛り付けは会場にて実施。

説明の際に、食すことと排泄はセットであることを強調し、携帯トイレの必要性を伝えることが最重要ポイントである。



備蓄の知恵

●日常的に消費する食品を、災害時に役立つ。

一「本食食」は何か多量ストックする必要はありません。非常食は長時間もたせたり火を付けずに調理できるため、調理が少し簡単です。これに対し、普段使う食材でも、長期保存が可能な食品はたくさんあります。(例えば、パスタや缶詰など)。普段から食べ慣れた食品を、ストックや非常食として(ローリングストックという)することで、無駄なコストを減らしましょう。

●最低1自分、最大1週間の食糧を準備する。

ライフラインの停止は、1週間程度と見られています。

<1人分、1週間の食糧の目安>
 水:2L×15L、のせつドレッシング、お茶
 米:2kg×1袋、乾麺300g、缶詰3個、缶詰
 しょうゆ、調味料、油、砂糖、塩

【内容3】感染症拡大対策のため実施できなかったが、本来であれば、各家庭において親子で備蓄食のアレンジを考えてきてもらい、①見た目、②味、③栄養の観点で採点し、からコンテストを実施予定であった。

(目的)

被災時の「食」について、親子で楽しみながら考えてもらうこと。

(方法)

①区から配布される備蓄食を使ったアレンジレシピを事前に親子で考案してもらい、会場で発表(調理の実演)。

②参加者が実際に試食し、見た目・味・栄養などの観点から採点(コンテスト形式)。

③応募作品のレシピをまとめてレシピ集を発行。



得られた成果	<p>備蓄に対する「やらされ感」から脱却してもらうことにチャレンジした。</p> <p>その結果、在宅避難との関係を丁寧に説明したり、備蓄食を使ったアレンジレシピを見て備蓄専用の食品以外も備蓄食になることを知ったりすることで、「備蓄（食・品）の準備は当然の事」という考えに至った参加者が非常に多く見られた（アンケート結果から）。備蓄に関しては、こどもたちよりも大人たちの関心が高かったことが印象的である。また、時間調整のためにこども向けの防災ビデオ視聴（当日のイベントと関連した内容が多く盛り込まれたクイズ形式：既存のコンテンツ）を用意していたのだが、これへの反応がとてよかった。動画視聴が防災知識をつけたり関心を持ってもらったりするのにとても有効な手段であることがわかった。加えて、「体験」＋「学習」を意識したコンテンツを作成することが有効であることに気づかされた。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	<p>・アレンジレシピのコンテストができなかったことが残念である。準備期間を長くとり、コンテスト参加者に動画を準備してもらう等の措置が考えられる。しかし、この場合、参加者の負担が大きくなるので要検討。</p> <p>・「体験型」と「学習型」を合わせることで相乗効果が期待できる。どちらか片方だと効果は激減する。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	湯島青少年健全育成会
関係者の説明	イベントの主催者
関係者の連絡先	文京区児童青少年課青少年係

関係者の名前・団体名	平本紀代子先生（元本郷小学校栄養教諭）
関係者の説明	アレンジレシピのアドバイス
関係者の連絡先	江東区東陽中学校

関係者の名前・団体名	文京区防災課
関係者の説明	備蓄食の情報と提供
関係者の連絡先	文京区防災課

関係者の名前・団体名	文京区防災課
関係者の説明	起震車の準備（同一イベントの他コーナー）
関係者の連絡先	文京区防災課

関係者の名前・団体名	本郷消防署
関係者の説明	AED 機材の準備・初期消火訓練の準備（同一イベントの他コーナー）
関係者の連絡先	本郷消防署


★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	行政関係者
伝えたい内容	やらねばならない事を発信するだけでなく、その理由を丁寧に解説する機会を設けることで、住民の意味のある防災対策が一気に進むと期待されます。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 12 月 30 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	文京 de BOSAI
実践番号	②
タイトル	親子で話そう「ひとりお家にいるとき、地震が起きたら」
実践担当者のお名前	石瀬素子・冨部哲也・松田充弘

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 12 月 4 日 10 時 00 分～西暦 2022 年 12 月 4 日 14 時 00 分、西暦 2022 年 12 月 28 日 (実施番号③の際)
実践の所要時間	約 4 時間
実践の運営側で動いた人の人数	3 人
防災教育の対象者の属性	小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・保護者
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都 文京区
実践を行った具体的な場所	文京区教育の森 文京区防災フェスタ会場にてアマチュア無線連絡会のテント内でボーイスカウトらと併設して実施
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	イラストレーター (ポスター作製)

達成目標	都市部は共働き世帯が多く、大地震が発生した時に、こどもが一人で留守番中であることも考えられる。そこで、そのような事態においても、親も子も落ち着いて対応できるよう、こんなときどうするか?を親子で話し合うきっかけを提供する。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>【内容】 こどもが一人で留守番している時に大地震が発生した場合、こどもが取る行動の流れを示したポスターと、ポスターの使用法およびアンケートサイトのQRコードが書かれた用紙を、小学生の親子連れや小学生の子どもがいる家庭に配布する。</p> <p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが一人で被災した際、子ども親も不安にならぬよう、事前に親子で話し合うきっかけを作る。 ・通り一遍の内容でなく、各々の家庭状況にあった行動があるはずなので、これについて親子で考える時間を持つ。加えて、親子が別の場所で被災した場合、頼れる近所の大人との関係が安心材料になることに気付いてもらう。 <p>(方法)</p> <p>①内容の検討、②ポスター作製、③使用方法とアンケート作成、④説明と配布（文京区防災フェスタ）</p> <p>上図・中図：ポスター表面・裏面 写真：ポスター配布時の様子</p> 
<p>得られた成果</p>	<p>自宅で被災した場合の行動について書かれた大人用の指南書はよく見かける。しかし、こどもに向けたアドバイスはあまり目にしない。そこで、都市部でありがちな一人で留守番するこどもに焦点を当て、ひとりで被災した際の行動について、親子で考えるきっかけを作ることにチャレンジした。</p> <p>その結果、配布時の聞き取り調査ではあるが、被災する想定として、親と子が別々の場所であることを考えている家庭が少ないことが分かった。また、こどもだけで留守番している際の被災についても考えている家庭は殆どなかった。首都直下地震が発生する前に、学校や学童において本コンテンツを実施する必要がある。</p>
<p>どのくらい身につく</p>	<p>知識・技能</p> <p style="text-align: right;">かなり</p>

ましたか？	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し
課題・苦勞・工夫	コンテンツ（ポスター）を配布して自宅で実践という方式をとったため、実践結果（帰宅後の話灰の内容等）をQRコードで収集することを試みた。ポスターの配布の際の説明は非常に真剣に聞いてもらったため手ごたえを感じていたが、帰宅後の反応は良くなかった。一層の工夫が必要であることが分かった（学校と連携して宿題にする、または参観日等に親子で実施する時間を設けるなど）。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	ボーイスカウト日本連盟 文京第6団
関係者の説明	防災フェスタでのコンテンツ実践に関する協力
関係者の連絡先	ボーイスカウト日本連盟

関係者の名前・団体名	文京区アマチュア無線局非常通信連絡会
関係者の説明	防災フェスタでのコンテンツ実践に関する協力
関係者の連絡先	文京区アマチュア無線局非常通信連絡会

関係者の名前・団体名	文京区防災課
関係者の説明	防災フェスタでのコンテンツ実践に関する協力
関係者の連絡先	文京区防災課

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	これから防災教育を始めようとしている方々
伝えたい内容	実践結果のフィードバックを得るには、かなりの工夫が必要です。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 12 月 30 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	文京 de BOSAI
実践番号	③
タイトル	やればできる！ 親子でやってみよう「応急救護訓練」
実践担当者のお名前	石瀬素子・富部哲也・松田充弘・伊東静香・岡庭譲治・小田巻善雄・酒井美津子

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 日
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 12 月 28 日 15 時 00 分～西暦 2022 年 12 月 28 日 17 時 00 分
実践の所要時間	1 グループあたり AED 訓練 30 分 + 包帯法訓練 30 分 + 復習 15 分
実践の運営側で動いた人の人数	9 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・保護者・地域住民
防災教育の対象者の人数	約 40 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都 文京区
実践を行った具体的な場所	鳳明館本館 竹の間（大広間）
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	AED 訓練キット・訓練用三角巾・消防署員・ビニル袋・ぼろ布

達成目標	災害時に応急救護（AED, 包帯法の技術）が必要になることは想像に難くない。しかし、その場面の情景を想像したことがある人は少ないと思われる。そこで、応急救護技術を親子やグループで学習することにより、大地震発生時にはどのような状況が生じ得るのかを話し合ったり、それを基にして各自が想像したりするきっかけにする。加えて、応急救護の技術を習得することで、「自分も助ける側になる」という意識をもつ。	
どの力を身につけよ	知識・技能	大いに

うとしましたか？	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>【内容 1】消防署員の指導の下、AED を使用する訓練を実施する。</p> <p>加えて、災害時に AED が必要になる場面を想像し、他にどのような状況が生じ得るか、他に何が必要かについて、消防署員も交えたグループディスカッション（質疑応答）を行う。</p>  <p>（目的）AED の使用方法の訓練を通して、災害時の様子を想像するきっかけにする。AED 使用に関する技術を経験（確認または習得）する。</p> <p>（方法）</p> <p>① 消防署員の指導の下、心肺蘇生法と A E D の使い方を教わり、人形を用いて実際に試す。</p> <p>② 消防署員を交えたグループディスカッションの実施。通常の訓練では想定されていないがありそうな状況を想像し、そのような場合の対処法について消防署員から教わるとともに救命経験者から実体験を伝えた。</p>   <p>【内容 2】消防署員の指導の下、包帯法の訓練を実施する。加えて、災害の状況を想像しながら他に何が必要かについて考え、消防署員も交えてグループごとにフリーディスカッションを行う。</p>  <p>（目的） 応急救護（AED および包帯法）の訓練を通して、災害時の様子を想像するきっかけにする。AED と包帯法の技術を経験（確認または習得）する。</p> <p>（方法）</p> <p>① 消防署員指導の下、三角巾を用いた様々な個所からの出血の止血</p>	

方法・固定の方法について教わり、実際に試してみる。

② 消防署員を交えたグループディスカッションにて、通常の訓練では想定されていない出来事について皆で想像し、そのような場合の対処法について消防署員から教わる。



【内容 3】参加者全員で、この日学習した内容のふりかえりをする。

(目的)

体験後に、知識型の取り組みを行うことで学習内容の定着を強化する。

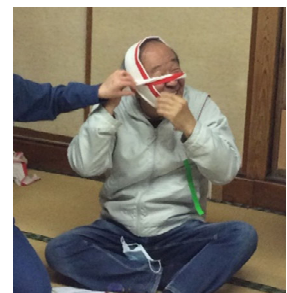
(方法)

- ① この日学習した内容のポイントを、クイズ形式で出題。
- ② 回答者と正解者には、皆の拍手と共に、「やったらできた」缶バッジ（右図・オリジナルデザイン）を進呈。



得られた成果

災害時に必要な技術を習得するための訓練に取り組むことから、災害時の状況を想像することにチャレンジした。小学生や中学生がいたため、大人だけの集まりと違って和やかな雰囲気での学習することができた。その結果、充実した議論の実施に繋がった。



例えば、「包帯法で使用した三角巾はいつでもあるわけではないので代わりに使えるものを教えてほしい」という質問が参加者から出た。『自分も助ける側になる』という意識をもてるようになったことの表れであるといえる。

また、このような訓練を定期的に受けたいという意見が多く聞かれた。これは、『自分も助ける側になる』という意識の表れであろう。

	以上のような成果を受け、消防署から学ぶ内容についての年間プログラムを作成を考えている。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者からの質問や消防署員のもつ様々な知恵を引き出す目的で、応急救護に詳しい団体メンバーを当該コーナーに配置する工夫をした。 ・復習コーナーを設けたのは、実践内容の習得状況の確認のための工夫なのである。 ・「やったらできた！」缶バッジは、回答者と正解者の「達成感の見える化」である。 	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	本郷消防署
関係者の説明	AED と包帯法の指導
関係者の連絡先	東京都文京区本郷消防署

関係者の名前・団体名	旅館鳳明館本館
関係者の説明	実践当日の場所の提供
関係者の連絡先	https://www.homeikan.com/

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	これから防災教育を始めようとしている方々
伝えたい内容	実践結果のフィードバックを得るには、かなりの工夫が必要です。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 12 月 30 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	文京 de BOSAI
実践番号	④
タイトル	親子で約束しよう「My お守り作り」
実践担当者のお名前	伊東静香・石瀬素子・北尾昭子

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 日
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 12 月 28 日 15 時 00 分～西暦 2022 年 12 月 28 日 17 時 00 分
実践の所要時間	1 グループあたり 30 分
実践の運営側で動いた人の人数	7 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・中学生・保護者・地域住民
防災教育の対象者の人数	約 40 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都 文京区
実践を行った具体的な場所	鳳明館本館 竹の間 (大広間)
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	お守り材料 (フェルト・デコレーションパーツ・ひも)・裁縫道具・はさみ・のり・ボンド・お守りシート

達成目標	実践番号②の取り組みでも明らかになったが、親子 (家族) が別の場所で被災した際の対応については、親子間 (家族間) での話し合いは十分ではないのが実情である。そこで、My お守り作りを通して、親子間 (家族間) の災害時の様々な約束事をまとめる。ランドセルやお稽古バッグ、通勤カバンに入れて常に持ち歩き、もしもの時の助けにする。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

(目的) 災害時に必要となる情報や事柄について親子(家族)で話し合い、その内容を肌身離さず持つておけるようにする。



(My お守り完成品 →)

【内容1】お守り袋のデコレーションをする。

(方法)

① (事前準備) 型に合わせてフェルトを裁断。刺繍糸を使ってお守りの形に縫い合わせる。#今回の準備は、代表が所属する町会の女子部にお手伝いいただいた(写真参照)。



② (以下、当日作業) 各自、好きなお守り袋を選び、好きなようにデコレーションする。



③ 紐通し用の穴をあけ、好きな紐を通す。



(↑ デコレーション材料の例)




(作業中の様子)

【内容2】お守り袋の中のシートを記入する。

① (事前準備1) My お守りの内容説明書を準備(下図左側)。

(事前準備2) お守りカードの内容を考えA4用紙に印刷(下図右側)。

② ガイドに従い、はさみで切り込みを入れて折り込み、A4用紙を8ページのノート型に変形させる(端を糊付けするときれいな形になる)。

	 <p>③お守りカードの記入。</p> <p>表紙：名前・緊急連絡先・住所・町会名</p> <p>p.1：じぶんの情報 (学校名、携帯番号、アレルギー、常用薬、病気や障害、特性など)</p> <p>p.2：かぞくの情報 (世帯主と家族の名前・勤務先・電話番号、近所の人との連絡先)</p> <p>p.3：かぞくとのおれんらく方法 (SMSショートメッセージ、LINE、災害伝言ダイヤルの使い方、家族で使用する電話番号)</p> <p>p.4：かぞくとのお約束 (ひなん場所・まちあわせ場所・家の中でのあんぜんな場所・遠くのひなん先)</p> <p>p.5：もち出すものなど (お役立ち情報のリンク先QRコード・すきなたべもの・きれいなたべもの・すきなあそび・あんしんのおまじない)</p> <p>p.6：メッセージや心得・合言葉</p> <p>裏表紙：メモ</p>
<p>得られた成果</p>	<p>この実践については、お守り紛失時における個人情報の問題を参加者がどう受け取るかについての不安があった。しかし、今回の実践では、全ての参加者が、お守りの紛失時よりも被災時に役立つ事を優先した。こちらの思いが実践者に届き、本当にうれしかった。また、おじいちゃん・おばあちゃん世代の参加者からは、「孫からもらえば、より嬉しい」という今後の実践に役立つ意見をいただいた。</p>

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	お守りカードの内容決めには苦労した。実践を重ねていながらアップデートの必要があると考えている。今回のポイントは、6 ページ目のメッセージコーナーである。家族の寄せ書きや写真などを貼っておき、家族と会えるまで頑張る力の源にしてほしい。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	旅館鳳明館
関係者の説明	準備および実践当日の場所の提供
関係者の連絡先	https://www.homeikan.com/

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災教育実践者
伝えたい内容	大人用のコンテンツは、こどもたちの実践には適さないことが多い。しかし、こども用のコンテンツは、大人が実践しても十分な効果が見込める。